

# Product Liability NEWS

PL 対策

検索



18号

1 .Aug.2023



【発行元】

一般社団法人 PL対策推進協議会 (略称: APL)  
〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町 35-28  
TEL : 050-6865-5180 FAX : 022-247-8042  
E-mail : c-japan@pl-taisaku.org



## 安全点検アプリの参加型ワークショップが始まりました。 大阪・関西万博 製品の安全安心PJ



### Society5.0 「超スマート社会」での品質について

情報社会と言われ始めたのは1980年ごろです。40年前、モバイル端末は誰も考えていませんでした。

OSとして公開された Windows は多くのコンピュータメーカーが搭載し、そのマシンではデジタル化に欠かせない文書作成や表計算ソフトを販売、一方、自社製品にしか使用しない Mac は印刷やデザイナーの必需品でした。

その後、この全く異なる OS は 2000 年に手を繋ぎソフトウェアの共通化が一気に進みました。Adbe の PDF が中心的になりました。これにより長期保管したデータは PDF で保管すれば環境が変わってもいつでも見ることができます。そして、今はモバイルを中心とした社会になり、業務でもかなりモバイルが主流になりつつあります。

超スマート社会では既に Chat GPT のように誰でも使える AI が登場、SNS も統廃合が進みます。

あっという間に標準とするものが入れ替わります。

Apple がスマホ、タブレットを次々に発表、今では正確な生体認証は当たり前になりました。Google は Android をを公開 OS にしましたが、これが今は米国のサイバーテロ対策として Apple のように自社で端末を発売、公開 OS についても色々セキュリティ上の強化を進めています。

製品を設計する際にもはやこの流れを無視していたら、取り残される時代になりました。

自社製品にはデジタルなど関係ないと言われている方々もそろそろ QR コードが何なのか、レジで使うバーコードとは何なのか、知らずに使っていることの危うさについて知っていただきたいと思います。Society5.0 とは DX であ

りデジタル化した後の大きな広がり、すなわち単にレジに使うだけだったバーコードはスマホのカメラでも読める QR コードに変わろうとしています。そんなこと聞いていない、という方は下記の野村総研のコラムを読まれると良いと思います。

[https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2023/iis/mizutani/0531\\_1](https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2023/iis/mizutani/0531_1)



物を売るからにはその責任を負うのは当たり前です。取引先も販売後のお客様の信頼を確保するのに既に欧米、注目すべきは中国であり既に 100% が流通に GS1 標準の 2 次元シンボルを利用しているとのことです。

皆様は PL 対策というものをいつどこで誰から知ったのでしょうか、超スマート社会での PL 対策は取説も AI が関わる、AI に判定される時代になります。わからない日本語は全て拒絶されてしまう、こんな当たり前のことなので、総点検してください。

品質管理と PL 対策は顧客対応として考えれば作るための品質管理と売った後の品質保証、さらに廃棄などの対応も全て自動認識になることを想定してください。

2023 年の専門講習を開始します。ものすごく世界が動いていることを知っていただき、その上で何をするのか、どうすれば売れるのか、対応しないリスクは誰が責任を取るのか、一緒に考えましょう。一足飛びに安全点検アプリを使うことで、納得していただくことになります。使ったほうが早い、それも今の社会構造です。(渡辺吉明)

専門講習のご案内はこちら>>

<https://pl-taisaku.org/?p=5065>



# 「Let's点検 スマートチェック」を開催しました

AFL  
PLnews

2023年 8月号

## 「安全点検アプリ」参加型ワークショップ開催

(7/20(木)@板橋グリーンホール6階)

2025年4月開催の大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」に向けて、第1回ワークショップをメーカーや一般社会人の方10名に参加いただき開催しました。

当日は、分かり易い取扱説明書と見難いものを2種類用意し、当協議会がWeb公開している「取扱説明書簡易検証プログラム」にて採点を行い、取説の重要性を体験しました。分かり易いことは当たり前であり、更に魅せる取説の重要性を学習しました。

次に、2次元QRコードを使った「安全点検アプリ scodt(スコドット)」を各自のスマホにダウンロードして、取説の閲覧や安全情報(リコール情報、使用期間の終了通告など)の通知などを体験しました。参加者から、たった1枚のQRコードから必要な情報をすべて見ることが出来るのは素晴らしい、とのコメントがありました。また、メーカーの方に scodt 登録する情報一覧(製品情報、検査成績書、取説など)を持参してもらい、その場でサーバ登録・QRコード化とスマホでの確認を行うデモを行い、好評でした。

最後に、参加者全員に資格証として「Junior PL Adviser」メンバーシップカードを手渡し、今後も引き続き「安全社会」を作り上げていくことを宣言しました。

本ワークショップを今後も定期的で開催し、「TEAM EXPO 2025」へ向けて関心を高めて行く所存です。(APLインストラクター 古森憲二)



取扱説明書、本体表示などのご相談承っています。

おかげさまで80周年

私たちは、お客様のご要望を「まるごと、しっかり」引き受ける  
三条印刷の「まるしか隊」です。



Graphic & Media Supporting.

三条印刷株式会社

■営業品目/ポスター・パンフレット・チラシ・出版(作品集・書籍・記念誌)・広告代理店 他

本社:〒955-0072 新潟県三条市元町9番3号  
TEL.(0256)32-2281(代) FAX.(0256)32-2670  
URL <https://sanjo-prn.co.jp>



■新潟支社  
■長岡支店  
■関越営業所  
■上越営業所  
■高崎営業所



## 取扱説明書簡易検証を使った夏休み研究提案

2023年7月9日（日）に板橋区立教育科学館でファミリーイベントとして開催された「いたばしキッズフェア」に、当協議会も参加しました。当日、2階の会場にはタニタハウジング社他数社が参加し、家族ずれの来客で賑わい、お子様の声が溢れました。

当協議会では、製品の安全に必要な取扱説明書の良し悪しを判断する「取扱説明書簡易検証プログラム」を使用して、その使い方を披露しました。興味を持っていただいたご家族では、当方で用意した参考の取扱説明書について、プログラムに沿って質問に答えを入力して結果を得ることが面白いとの感想もいただきました。小学校低学年のお子さんには父兄が説明しながらお子さんが判断して入力するなど真剣に対応する姿が印象的でした。そして入力結果による点数の理由に納得しているお子さんを見て、このプログラムはご家庭でも有効に使用できると確信しました。

これを使って、夏休みの自由研究にも活用でき、同じ製品でもメーカーにより取説の書き方が違うとか、中国からの輸入製品の取説の表示方法の違いなどを確認することもできます。小学校高学年であれば、自分で調べることもでき、また低学年であれば父兄の方の補助を受けて調べることができます。



取扱説明書の良し悪しを検証することで、家族中が製品の安全度合いや質の確認、また製品を提供するメーカーに対する信頼度確認など日常生活においても、製品の安全・安心に対する望ましい環境が醸成される可能性が高いと考えました。

なお、ご家庭でこの簡易検証をお使いになる場合、当協議会が発刊している「取扱説明書ガイドライン2022」を事前にご一読していただくことで、より深いご理解が得られるものと思います。ご家族そろっての夏休み自由研究にお勧めです。（渡辺欣洋）

はじめませんか?  
スプーン1杯の  
健康習慣

JOAN  
INTERNATIONAL  
ジョアンインターナショナル  
03-3903-7607

ガッティ家のオリーブオイル

検索

JOAN INTERNATIONAL

G51QR scott

## 最新 PL 対策と取扱説明書・表示対策が学べます

この度、当協議会の 2023 年度後期講習として「最新！PL 対策専門講習」を開催致します。

もともと、安全安心は製品が安全であることとし、国や業界団体で様々な法整備やルールづくりを行なっています。ただ、グローバル化し誰でも世界中の情報を得られるようになると、国内の特定のルールでは対応できないことも判明してきました。

食品も本年より安全に関する表示は全て消費者庁に一本化されています。その表示も米国ではこれまでの JAN コードから 2 次元シンボルに POS (レジシステム) の入れ替えが 2024 年から始まります。

Society5.0 の実験場として関西・大阪万博が開催されることも日本では大きな転換期になります。いち早くその対策を進め、消費者安全の DX 化を進めていただくための 2023 年度後期の講習を開始します。

偶数月は「グローバル社会での出荷後の製品の安全確保」、奇数月は「スマート社会での取扱説明書と表示対策」と交互に月一回開催致します。

講習を受けられた方には PL 検定上級の費用を割引致しますので、PL 検定を受験したい方、セミナーから更に理解を深めたい方はぜひご参加ください。

**開催予定** 毎月第三木曜日 13:00~17:00 (懇談会~18時)

**開催方法** zoom、講師事務所でのハイブリッド

**費用** 一回一人 55,000円

(賛助会員・JGKA の会員は 20%OFF、インストラクターは無料)

**対象商品**：食品飲料、日用品雑貨、家具、機械器具、産業用機械、関連パーツなど

**テキスト** 別売 (すでに持たれている方は持参)

○最新 IPL 対策解説書 2022

○取扱説明書ガイドライン 2022

## 最新！PL対策専門講習のご案内

2025年はSociety5.0超スマート社会への産業構造転換に向けた取り組みから10年の節目です。大阪・関西万博はその実験場としており、世界の動向をいち早く知り先手を打ってください。

## 2025年に起こること

### 急がないと間に合いません！

- 2024年から始まる北米でのバーコードの2次元化の実情
- 北米での食品トレーサビリティ法の影響
- 経産省の消費生活用製品リコールハンドブック2022の解釈
- 食品表示に始まる今後の表示規制の影響
- 事業者の伝える責任、消費者の知る権利への対応など

### 新たな社会での体制整備見直しが急務！

子会社の責任は親会社の経営トップの責任に。

リチウムイオン電池の火災、自転車や自動車、異物が混入した食品事故やリコールが多発しています。コロナでアルコールスプレーが使われ花火の火花で衣類に着火、大やけどにもなっています。製品に書いてあることや取扱説明書がよく読んで安全に利用してもらうために大切なものです。

PL法施行時には多くの団体がこの対策に奔走しました。一方、国内ではPL保険が普及し事業者の多くは特に危機感を持っていません。この際、産業構造、社会環境が激変し、製品事故多発を受け、製品リコールなどの法律の見直し、新法の発効などが進んでいます。

- ・ 開催予定 毎月第三木曜日13時から17時まで
  - ・ 開催方法 zoom、講師事務所でのハイブリッド
  - ・ 費用 一回一人 55,000円
  - ・ テキスト 別売 (すでに持たれている方は持参)
- 最新PL対策解説書2022  
取扱説明書ガイドライン2022



講師 渡辺吉明  
1949年9月生まれ

当協議会、PL研究会設立者で日本のPL分野では、国、法律家、さまざまな分野の専門家などと40年近く関係を深めています。製品デジタルトレーサビリティも含め、メーカー、通販m小売などでの指導実績1,000社以上です。プロフィールは <https://pl-taisaku.org/?page=01-2007>

## 消費者に伝える責任の達成

SDGsの進捗により消費者の「知る権利」が様々な事業活動に影響しています。もともと、安全安心は製品が安全であることとし、国や業界団体で様々な法整備やルールづくりを行なっています。ただ、グローバル化し誰でも世界中の情報を得られるようになると、国内の特定のルールでは対応できないことも判明してきました。

食品もこれまでは農水省~厚生省~消費者庁に所管が分かれていましたが本年より安全に関する表示は全て消費者庁に一本化されています。その表示も米国のFSMA204という食品トレーサビリティ法の影響が大きく、これまでのJANコードを2次元シンボルにPOS (レジシステム) の入れ替えが2024年から始まります。海外では元々PL法に販売者も責任を負っていますが日本では古くまであり、これも今はデジタルプラットフォームの安全監視義務が強化されています。Society5.0の実験場として関西・大阪万博が開催されることも日本では大きな転換期になります。いち早くその対策を進め、消費者安全のDX化を進めていただくための2023年度後期の講習を開始します。



### 偶数月開催

#### グローバル社会での出荷後の製品の安全確保

- ① PL(未然防止)
- ② PLD (再発防止)

使用テキスト：  
最新！PL対策解説書2022

これまでの体制整備の特に出荷後のデータ管理、ユーザー管理などのDX化について、企画設計~製造、品質保証~カスタマーサポートなどの持続可能な効率化をテーマにし、万の間にまた、これまでリーチできなかった中古市場を含めたグローバル戦略にも活かされます。

### 奇数月開催

#### スマート社会での取扱説明書と表示対策

使用テキスト：  
取扱説明書ガイドライン2022

PL法施行は1995年、今から28年前のことです。今のネット社会を想定しておらず、EUを中心にPL法の改正も進んでいます。取扱説明書も情報、誤った翻訳での事故は誰の責任か、表示は誰のためか、何のためかなど、国の法律や基準、業界団体の情報などが新たな社会にそぐわなくなっています。取説や表示の社内基準を整理し、読みにくい本体表示を改善する方法、その目的、また客観的評価をするための知識をつけていただきます。

### 2023年8~11月の開催予定

- 第3木曜日 13時~17時 (懇談会 ~18時)
- 対象商品：食品飲料、日用品雑貨、家具、機械器具、産業用機械、関連パーツなど

詳細・お申し込みはこちら

<https://pl-taisaku.org/?p=5065>





製品に表示する一つの QR で安全な暮らし

安全点検アプリ（無料）で読み込むだけで様々な DX 化が実現！  
個人情報不要で製品と使用者をスマホを通じてつなぎます。

## 知りたいこと

- ・正しい使い方
- ・アレルギーや成分の詳細
- ・組み立て方やメンテナンス
- ・不具合の対応
- ・寿命やリコールの確認など
- ・メーカーとの連絡方法など

多言語対応！



安全な生活は「安全点検アプリ」で！

= 参加型体験ワークショップ =

■開催日：8月10日（木）

■時間：16:00～17:30

■会場：Zoom によるオンライン開催

■参加費：無料

お申し込みはこちら>>

<https://pl-taisaku.org/?p=4933>



個人情報は使いません！  
一人農家・スタートアップ・  
個人商店なども利用できます。

全て無料

## 製品を作る側が伝えたいこと

- その製品の特徴
- 便利に正しく使うための情報
- リスクやそれを避ける方法
- 修理点検や寿命、リコールなど

## 使う側が知りたいこと

- 本体の表示ではわからないこと
- 広告で見たことはどうやればできるの
- 目の前のものは本当に安全なの
- 緊急時の連絡先や対応方法

一つの QR コードで可能です。

## 「安全点検アプリ」使ってみませんか

大阪・関西万博での安全安心、そして多言語対応などにも便利な「安全点検アプリ」の普及を進めるために、消費者に向けた参加型ワークショップ（無料）を開催します。

このイベントは、製品（食品なども）を安全に利用するために、事業者が伝えたいことを製品に表示した専用の QR コードから「安全点検アプリ」で正しく安全に便利にご利用いただくことを伝える世界で初めての取り組みです。製品の安全や取扱説明書・本体表示の話題を交えながら、実際に

その場で QR コードを作成し参加者の皆様に読み取っていただく体験型のイベントです。日常生活や仕事における製品の安全に関心のある皆様はぜひご参加ください。

- 身近な製品での安全点検をしましょう。
- 正しい使い方や安全上の確認をします。
- 安全点検アプリの感想もお聞かせください。

イベントの詳細は>>



<https://pl-taisaku.org/?p=4933>

取扱説明書に関してのお問い合わせが数多く寄せられており、関心の高さが伺えます。ここでは、その中から何点かピックアップしてご紹介します。

Q: 取扱説明書は必ず作成しなければならないものなのかどうか。作成必須であれば、法律上の根拠（何という法律の何条）を教えてください。

A: 日本国内では取扱説明書の添付についての法的義務はありません。ただし、使用説明に関する国際規格として「ISO/IEC Guide37:2012」、「IEC82079-1」といったものがあり、それを受けて日本国内でも JIS 規格として「消費生活用製品の取扱説明書に関する指針」が対応しています。

また、製造物責任法（PL 法）は製品に欠陥があった場合の賠償責任を規定した法律ですが、欠陥の定義の一つに「有用性ないし効用との関係で除去し得ない危険性が存在する製造物について、その危険性の発現による事故を消費者側で防止・回避するに適切な情報を製造者が与えなかった場合、いわゆる**指示・警告上の欠陥**」といったものがあります。

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/other/pl\\_qa.html#q1](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/other/pl_qa.html#q1)（参照：消費者庁 HP）

つまり、製品事故が起きた場合に取扱説明書の不備で「その危険性を消費者に伝えなかった」ということで賠償責任を負う可能性があります。ただし、訴訟対策として注意事項を全て書いておけばいい、といった取扱説明書ではかえって読まれなくなることに繋がります。

したがって、当協議会ではあくまで消費者目線に立って「正しい情報を分かりやすく明確に伝える」取扱説明書を作る必要がある、と考えています。

取扱説明書の基本的な考え方や必要な項目を記した「取扱説明書ガイドライン」や、PL 検定、専門講習などを通して、取扱説明書や本体表示の見直し・改善を行ってみたいかがでしょうか。

Q: 弊社、カー用品（雑貨）を製造しておりますが、昨今パッケージの面積が縮小され、取扱説明書を書くスペースも減少しております。テレビのニュースで見たのですが、QR コードで自社 HP に誘導して取説を読んでもらう手順は法的に問題はありませんでしょうか？

A:2012 年に発行された使用説明に関する国際規格「ISO/IEC Guide37:2012」、「IEC82079-1」では、使用説明の提供が紙に限定されなくなり、web のみで配信することも可能となりました。しかし、単に HP につなげるだけでは消費者が製品を探す手間がありますので、その辺りについては一工夫が必要です。

また、IEC82079-1 では製品のリリース後、製品の予想耐用年数の間、使用説明をユーザーに確実に提供することを義務付けています。もちろん web でも紙媒体と同様です。この点においても web 上の情報は紙ほどに長期保存に向いているわけではありません。以上の点などに留意して QR コードを活用してください。

当協議会でも専用の QR を利用して取扱説明書などを表示するシステム「安全点検アプリ」を推進しています。また、上記アプリの体験イベントなども開催していますので、ご関心がございましたらぜひご参加ください。

「安全点検アプリ すこどっと」  
[https://pl-taisaku.org/?page\\_id=2823](https://pl-taisaku.org/?page_id=2823)



TEAM EXPO 2025 製品の安全安心 PJ  
[https://pl-taisaku.org/?page\\_id=4850](https://pl-taisaku.org/?page_id=4850)



建築金具・大工道具・電動工具

**金物センター**

株式会社 ナガオカ・リコー

〒955-0081

新潟県三条市東裏館 2-17-15

<https://www.nagaoka-rikoh.co.jp>

## エアコンや扇風機の火災事故、夏にかけて多発 長年使った製品に注意

## TOPICS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) は、使用頻度の増加に伴い事故が多く発生しているエアコン及び扇風機について、使用時の注意点を紹介しています。

## カエル混入相次ぐ 混入した食品の安全性と企業の再発防止策 (TBS NEWS)



火を吹くエアコンと扇風機 (出典：家電Media)



エアコン及び扇風機の事故は、2018 年度～ 2022 年度の 5 年間に合計 409 件 (エアコン:343 件、扇風機:66 件) あり、その約半数に当たる 186 件が 6 月～ 8 月の夏期にかけて発生しており、事故のほとんどが火災事故です。特に、古い製品やリコール対象製品、あるいは施工に問題を抱えている場合は、これまで正常に使えていたとしても、酷使や経年劣化により事故のリスクが高まるといいます。

2023 年 5 月、スーパーなどで販売されたサラダ類にカエルが混入するケースが相次ぎました。まず、11日、長野県の「イトーヨーカドー アリオ上田店」でサラダの購入客から「カエルとみられる異物が混入していた」と連絡がありました。さらに 21 日、長崎県の「丸亀製麺 諫早店」では、5 月から発売開始の「丸亀シェイクうどん」にカエルが混入していたとして、生野菜使用の一部商品を 25 日まで販売休止としました。

(出典：<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/503420?display=1>)

NITE は、エアコン・扇風機の気をつけるべきポイントを 2 つ挙げています。

食品安全において、異物混入は大きなテーマの一つです。今回のカエルはニホンアマガエルで幸い毒性もなく、中毒などの健康被害も報告されていないのですが、万が一毒性やアレルゲンを持つものが混入すれば最悪の場合、消費者の生命に関わる問題となります。また、今回の件の対策として検査体制を強化するそうですが、悪意を持った人間が異物混入を起こすケースも考えられます。

1. 点検の結果、少しでも異常がある場合には使用を中止し、専門の知識や資格を有する業者に点検を依頼する
2. 使用している製品がリコール対象ではないか確認し、該当製品の場合は使用を中止し、事業者連絡する

特に、製造から長期間経っている製品は、部品が劣化して火災のおそれがあるため、少しでも異常がみられる場合は使用を中止し、製造事業者などの専門知識や資格を有する業者に点検を依頼しましょう。また、リコール製品を持っている場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、購入店や製造・輸入事業者に確認や相談をするよう呼びかけています。

だからこそ、何かが起きた際に直ちに消費者に通知できるようにB2Cトレーサビリティを可能にするシステムが必要なのです。米国でも食品リコール法FSMA204を発効し、食品トレーサビリティの強化が始まっています。日本にもその流れは必ず影響があります。



大阪・関西万博に向けてイベントを開催します。

全国的に猛暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。熱中症対策にはこまめな水分・塩分補給が必要です。十分にお気をつけてお過ごしください。

現在、協議会では「TEAM EXPO 2025」に登録が決まり、事業者向けの Zoom イベント、一般参加者向けのリアルイベントを開催しています。取扱説明書の検証や安全点検アプリの体験などを行っていますのでぜひご参加ください。

また、最近のお問い合わせはやはり、取扱説明書関連のものが多く、「取扱説明書に法的な義務はあるのか」「電子版だけで問題はないのか」といったお問合せが寄せられています。そちらも取扱説明書・表示対策の講習やセミナーを行いますので、関心のある方、書籍を購入された方などもご参加をお待ちしております。(事務局 菅野)



メルマガ登録はこちら

[https://pl-taisaku.org/?page\\_id=4253](https://pl-taisaku.org/?page_id=4253)



PL 検定初級 5,280 円 (税込)

PL 対策・体制整備・表示などの基礎を学べます

詳しくはこちら>>

[https://pl-taisaku.org/?page\\_id=630](https://pl-taisaku.org/?page_id=630)



これまでは国も企業も製品事故が起きてからの対応をしてきましたが、産業構造が大きく変わりこの方法では製品事故が増え続けています。このため、国は製品安全のスマート化を提唱、品質保証分野でも事故未然防止・再発防止を行えないと企業にとって大きな経営負担になっています。これまでの取り組みをどのように改善するのか、社内の体制整備、本質安全設計から販売後の中古市場まで見据えた品質保証、製造物責任、自主回収やリコールの本来あるべき姿を学んでいただけます。



最新！PL対策解説書2022  
税込 5,280 円

これ一冊で、最新の PL 対策  
まるわかり！

ポジティブインセンティブ規制、ポジティブリスト化する法律や基準、急速に進む流通小売の動向など、製品安全の最前線で 27 年に及ぶ PL 対策の第一人者 R&D スペシャリストが書き下ろした実務書です。

皆様の業務改善、体制維持などの全てが書かれています。取扱説明書ガイドライン2022と併せて万全の最新の PL 対策にお役立てください。



取扱説明書ガイドライン2022  
税込 7,700 円

わかりやすく、見やすい  
消費者視点の取扱説明書

産業用機械から日用品まで、消費者市場にて使われるものを対象に「取扱説明書ガイドライン 2022」を新たに出版しました。

初心者でも作れるようにテンプレートもデータで配布します。モバイルの小さな画面でも、知識のない人でも分かりやすく正しい使用方法を伝え、誤使用の事故をなくすことを目的とし、当協議会では PL 検定受験を通し「なぜ取扱説明書が必要なのか、表示とはどのような関係なのか」も理解していただけるように支援を行なっています。